

令和元年司法試験 合格体験記

平成26年度修了（未修コース）吉田 修一

自己紹介をします。9期未修の吉田 修一（よしだ しゅういち）と申します。

合格体験記を書きます。4回司法試験に落ちた後、受験資格最後の5回目で合格することができました。在学生の励みになるようなコメントは「少なくとも今年は、合格率が33.63%と3割を超えている試験なので、受け得ですよ。」です。

聞けば「この場を借りてお世話になった方に感謝の思いを伝える等に利用してもよい」とのこと。既に親族に伝え、【井藤公量先生のブログ】（2019年9月10日のコメント欄掲載）でお世話になった先生方・友人・知人等へは以下の「ご挨拶」として済ませたことになっているため、重ね重ねになり申し訳ないのですが、再掲させていただきます（なお再掲にあたり、法科大学院資料室の方々等にも手数をおかけしました。それへの謝意の意味を含ませてください。）「今まで有形無形に手間を【取らせる】等、大変お世話になりました。また機会を作る等して、個別のご挨拶等させて頂きたく思っています。取り急ぎ以上です。」

合格祝賀会で既に話したのですが、文字や皆さまを通じてでしか言葉を届けることができないであろう先生方へご挨拶するために、この場でもお話をさせて下さい。

まず、宮本由美子先生。ロー入学頃から最晩年に至るまで一緒に熱い議論（主に民事）を重ねることができて、本当に楽しかったです。

つぎに、田原睦夫先生。岡大の講演会での話や振舞いを見聞きし、勝手にライバル視して倒産法を選択しました。最高裁の補足意見を通じて、大事とおっしゃっていた「可塑性」の意味を学ばせて頂きました。

最後に、父の恩師でもあった阿部浩二先生。幼い頃より縁故があり、直接お話しさせて頂いたこともありますが、法律的な議論はかないませんでした。合格後、手始めに「中川先生とミクロネシアのこと」（「みやぎのしのぶ（中川善之助先生喜寿記念随筆集）」より）を拝読しました。そうすると、私が、私自身の「ミクロネシア」を目指して法律学を志し、「常に善意に解すること」ができるようになったのは、阿部浩二先生の姿を父の言動の中にみて真似てきたからだだと、私も「一人で決め」ました。楽しい法律学に引き込んで頂き、本当にありがとうございます。これからも「ミクロネシア」を目指して精進致します